



いっしょに歩こう！ プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援



今年も寒い冬が来ました。季節は巡り、再び雪の舞う季節となりました。

夜が訪れ、朝が来て、「昨日」、「今日」、「明日」を繰り返して人間は生きています。時は確実に過ぎ去り、どんなに願っても時間を遡ることも、一足先に行くこともできません。時の流れの中に生きることの苦しみ、答えの見つからない問いを繰り返します。

心も魂も傷ついています。孤独と絶望が、まるで生き物のように我が身を暗闇の底深く引き落としていきます。そこから這い出ようと「今日」をひたすら生きます。

その時、神は人となりました。永遠という、いつも新しい「今」の時にいらっしゃるお方が、「昨日」、「今日」、「明日」の時のただ中でしか生きられない人として、この世界に生まれ出てくださいました。

誰からも注目されることのないありふれた情景の中に、赤ん坊として神はいてくださいました。それから先の生涯は、住むところや食べることに安定せず、人々の無理解や暴力によって無力な姿を曝し、道半ばで不条理な死を迎えることとなります。それでも神は、人となりました。

人としての苦しみを経験し、ともに痛み悲しんでくださるために。孤独な人のそばにいるために。なぜと問う人に、答えを、生きる力を分かち合うために。ひとり一人の人生の物語が忘れ去られることなく語り継がれるために。人が生きること、それがただそれだけでどれ程尊いことであるかを教えてください。

今年もまたクリスマスを祝う季節が来ました。雪が舞う季節です。

司祭 マリア・グレイス 笹森田鶴
いっしょに歩こう！プロジェクト運営委員

2度目のクリスマス

- ✂ 高橋 仁美 (釜石神愛教会)
- ✂ 赤坂 唯 (仙台基督教会)
- ✂ 武藤 照子 (若松諸聖徒教会)

日本聖公会宣教協議会から

- ✂ 司祭 野村 潔
「いのち、尊厳限りないもの」

2012年のクリスマス

震災により傷ついたものの、倒壊しなかった建物の解体は、昨年よりも今年に入ってから進められています。これまで倒壊の危険があった建物が優先的に解体されてきたためと言われています。日本聖公会東北教区の3つの教会も、震災による建物の倒壊は免れたものの大きな被害を受け、今夏に順次聖堂の聖別解除をし、解体・建築工事が始められました。

様々な教会でお祝いをするこの時期に、被災地で、昨年ともまた異なる環境の中でクリスマスを迎えようとしている方々を改めて憶えたいと思います。



▲釜石神愛教会で行われた2011年のクリスマス礼拝



▲若松諸聖徒教会および若松聖愛幼稚園園舎



▲仙台基督教会 聖堂内観

待ち遠しいクリスマス

カタリナ 高橋 仁美 釜石神愛教会信徒／釜石神愛幼児学園園長

皆さんがご存知のように、釜石神愛教会と幼児学園は現在新築工事中です。7月の礼拝堂聖別解除の時は、さすがに「最後」と思うと胸に迫る物がありました。8月末に解体が終了し、礼拝する場所がなくなってしまった時には本当に心から淋しく、自分の居場所が無くなったような気さえしていました。

教会と幼児学園の建物が一体で、祈りの場所も仕事の場所も一緒になっていたためかもしれませんが、私たち信徒だけではなく、卒園児の保護者からも「何だか淋しくなった」という声を数多く聞きました。

現在の仮園舎では、主日の礼拝を行うことを控えています。そのためか、この仮園舎が私の体には馴染まないと言うか、静かに祈りを献げる場所にはなっていません。「早く我が家に帰りたい！今すぐにも帰りたい！」と言うのが本音です。

幼児学園ではクリスマス礼拝と祝会の練習が既に始まっています。仮園舎のホールでは手狭ですので、礼拝と祝会は隣の施設の屋内軽運動場を借りて

開催します。暗幕もなく、ステージも小さく高く、ピアノもなく、全く初めての状況の中でのクリスマスを迎えますが、どんな場所であっても、今年も子どもたちと一緒にクリスマスを迎えることができることが、教会としても一番の幸せです。神愛幼児学園の自慢の職員たちが工夫を凝らして、きっと記憶に残るようなクリスマス会を作り上げてくれることと期待し、楽しみに待っています。

皆さんも楽しみにして下さいね。



仮園舎のホールで行われた釜石神愛幼児学園の幼児礼拝（12/11/14）

神さまの家、私の教会

パトリシア 赤坂 唯 仙台基督教会信徒



幼年期、ひとり大聖堂の真中に立ち「よーのつみをー」と毎週大声で歌っていた、私の生まれ育った仙台基督教会はもうありません。もともと老朽化が進み建て替えの話はでていましたが、3月11日の大地震により聖堂は使用禁止になり、「最後の礼拝日」を事前に知らされないまま呆気なくその長い年月に幕を閉じました。

昨年の、私にとって21回目のクリスマス・イブ。明りの消えた聖堂にキャンドルの暖かい光が灯る例年とは違い、はじめて教区会館で蛍光灯の下礼拝を守りました。それでもたくさんの人が集まりました。



仙台基督教会の仮礼拝所

しかし今年に入り、いよいよ建て替えが始まり、現在はビルの一室を間借りして主日礼拝を守っています。

「お祈りができれば場所はどこでもいい」と思っていました。聖堂がないということは思っていた以上に悲しいことですね。楽しみにしていたバザーも、毎週の愛餐会も出来ず、祝会ではごちそうを目の前に楽しいクリスマスをみんなと過ごすところ…借ビルは飲食禁止です。私は皆と共に食卓を囲むことがとても大事だと思っています。礼拝では共にお祈りを捧げますが、あまり会話はしません。愛餐会でいっしょに美味しい食事と共に時間をかけてお話をすることで、心と心を繋ぐことが出来ていると思います。それも教会に来る楽しみの一つだと思います。

しかし悲観的な事ばかりではありません。多くの人がこの地を訪れて下さり、今まで出逢ったことのない人々と共に礼拝を守ることでもでき、今までになかった経験をたくさんしています。

だから一日も早く素敵な教会を建てて、私の愛する教会で、私の愛する人たちと共に、そして一人でも多くの人と共に、そこで礼拝を守りたいのです。

震災後2回目のクリスマスを迎えるにあたって

アンナ 武藤照子 若松諸聖徒教会信徒



震災後2回目のクリスマス、間もなく迎えます。東日本大震災により、築100年を超える若松諸聖徒教会の建物は一層傷みました。昨年はその礼拝堂でクリスマス礼拝が行われました。私は、イエス様の御生誕のお祝いと感謝の気持ちを、おささげしました。そして多くの被災された方々へのお守りを、沢山お願いしました。

神さまの大きなお恵みが有り、東北教区の皆様、「いっしょに歩こう！プロジェクト」の皆様、そして多くの方々のご援助とお祈りによって、長い間願っていた、若松諸聖徒教会の建て替えが始まりました。若松諸聖徒教会は木造の2階建てで、1階は若松聖愛幼稚園、2階が礼拝堂でしたが、まず子どもさんの命を優先に考えて園舎の建築が、進んでいます。今私達の礼拝は、インフォメーションセンターと呼んでいる、今までの建物のほんの少し残された所で行われています。その広さは、20㎡位で、15名も入ったら一杯です。その礼拝所の窓から、建築

中の建物が見え、大工さんが作業をする音も聞こえて来ます。大工さんは日曜日にも働いて下さっています。間もなく迎えるクリスマス礼拝に、沢山の方が、いらっしゃる事でしょう。この狭い礼拝所で、どの様にしたら良いかと、皆で考えています。有難く嬉しい悩みです。神様に感謝いたします。



現在使用している若松諸聖徒教会礼拝所の入口

いのち、尊厳限りないもの ～日本聖公会宣教協議会～

司祭 野村潔 いっしょに歩こう!プロジェクト運営委員

去る9月14日(金)～17日(月)の日程で、浜名湖畔の研修施設「カリアック」にて信徒・教役者約140名が集い、「いのち、尊厳限りないもの」のテーマのもと、「2012年日本聖公会宣教協議会」が開催されました。

そもそもこの宣教協議会は、信徒・教役者の減少、財政危機など教会が直面している様々な課題を分かち合いながら、日本聖公会の将来ビジョンを描くために開催されるはずでした。ところが、東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原発災害によって、それまで準備されてきた内容や方向性を見直さざるを得なくなりました。

巨大な津波によって押し流される家々、瓦礫の山となった町や村、たくさんの命を奪われ、言葉に表せない悲しみと喪失感に苛まれている人びと、或いは、福島第一原発の爆発の様相などが次々とテレビに映し出され、とても現実とは思えない光景が幾度となく目に飛び込んできました。

この未曾有の出来事を目の当たりにして、キリスト者の中には、どうしてこのようなことを神様は許しておられるのかといった信仰的な問いを感じられた方も少なくありませんでした。この悲惨な状況に直面し、尚、私たちはどのように神様を信じたらよいのだろうか、また、教会の使命は何なのか、いったい教会の宣教・牧会とは何をなすことなのか、多くの人々がそのような問いを持たざるを得ませんでした。

このような事態において、日本聖公会として何ができるのかという問いかけから、私たちが、ようやくたどり着いたひとつの方向が「いっしょに歩こう」ということでした。何ができるかわからない。しかし、困難な状況に放り出された人々、悲しい思いをしている人々と、少しでもいっしょに歩こう。何の力にもなれないかもしれない。しかし、主イエス・キリストが共に歩んでいることを信じて、被災した人々の傍らに寄り添いたい。それが日本聖公会

としての被災者支援の方向でした。このような願いに支えられながら、今日まで「いっしょに歩こう!プロジェクト」の働きが続けられてきました。

この出来事が、日本聖公会の宣教ビジョンを描こうとする宣教協議会の内容に関係しないはずがありません。それどころか、多くの人が、これからの日本聖公会において、この経験を抜きに、教会の宣教・牧会を語ることはできないと感じました。

宣教協議会では、「いっしょに歩こう!プロジェクト」の現地担当者として長谷川清純司祭と越山健蔵司祭が招かれ、この大震災を通して経験されていることが分かち合われました。長谷川司祭は、この被災者支援の働きが、確かに主イエスによって導かれてきたことを証しました。彼は被災者を訪問した際に、主イエスが被災者の傍らに立ち、自分たちを待っておられたという経験を語りました。また越山司祭は、放射能汚染をめぐる人々の様々な戸惑いや心の痛みを共有しながら、その中で揺れ動く人間関係の苦悩を語られました。様々な困難のなかで、無力感を感じながら、しかし、ひとりひとりの傍らに寄り添い、共に歩み続けようとするからこそ、今日、教会に求められている宣教・牧会であるとのメッセージを、私たちは聴くことができました。



そのことは、西原廉太司祭による基調講演においても示されました。西原司祭は、主イエスの人生そのものが、殊に小さくされた一人一人のいのちに寄り添うものであったこと、それ故、私たちが、あらためて「いのちの大切さ」を心に刻み、そのことを宣教の原点として教会の歩みに生かすことの大切さを豊富な資料と共に語られました。

宣教協議会では、話し合いの内容を「日本聖公会<宣教・牧会の十年>提言」にまとめ、各教区・教会に託しました。いつかは「いっしょに歩こう!プロジェクト」の働きも終わる時が来ます。しかし、この「提言」が生かされることによって、各地でこの「プロジェクト」を継承する働きが広がっていくことを期待したいと思います。



■新地町（福島県）／民謡・三味線・太鼓演奏

名古屋からボランティアの方が新地町を訪れ、2日間にわたって新地ベースと、3つの仮設住宅の集会所にて民謡・三味線・琉球古典太鼓の演奏を披露。どの仮設でも大絶賛で、音楽に合わせて踊り出す人もいれば、感激して涙する方も。演奏後には全員と握手を交わし、仮設住宅の皆さんと再開の約束を交わしました。



■仙台市（宮城県）／外国人リフレッシュプログラム

ワークショップやカウンセリングを通して外国人被災者のケアを行う1泊のプログラムを、大船渡市、仙台市、いわき市、盛岡市で開始。毎回、聖公会の聖餐式も行います。全4回終了後、各回の代表者会を開き、外国人居住者が持つ、地域における課題などを分かち合い、国や県や市、国際交流会などに対し政策提言をしていきたいと考えています。



■仙台市（宮城県）／日本語教室

仙台オフィスで外国人女性を対象とした日本語教室を開講しています。目標は日本語能力試験4級合格。被災し、新たな職を求めているものの日本語の読み書きができないため思うような仕事に就けない、という切実な想いを聞いたことがきっかけです。試験日までの約2ヶ月間で12回開講予定。みんな勉強の機会を与えられた事とても喜んでます。



カナダ聖公会 首席主教フレデリック・ヒルツ大主教、ポール・フィーリー大執事 来訪



かねてからの強いご希望による来訪です。1日目は「いっしょに歩こう！プロジェクト」の報告をDVDで見ながらボランティアスタッフたちとの会合、2日目は「被災者支援センターしんち」とその周辺の被災地を、被災者の案内で訪問されました。中部教区成立100周年記念事業に参加する直前の短い期間ではありましたが、実際に被災地を見、被災者に会う中で、お二人はいろいろな体験を言葉にしてくださいました。

「津波におそわれた沿岸部に小さな花々が咲いているのを見ました。ここに新しい生命が生まれていることに感動し、希望の光を見ました。」

「ふじ幼稚園では子ども達の笑顔が嬉しく、勇気づけられました。」

「あらゆる生命を原子力の危険から守り、原発のない世界を求める日本聖公会の呼びかけを聴き、感銘を受けました。」

「日本聖公会のすべての教区、教会、教役者、信徒が一つとなって、被災された方々を癒し、希望をもたらすために歩き続けようとしてきていることに衝き動かされました。これこそが教会のミッションだと感じています。聖公会に連なる者として、誇りに思います。」

私たちは、これらの言葉からたくさんの勇気と励ましをいただきました。また、日々の活動が祝福され、「良し」とされていることに改めて気づかされました。

写真 ①新地町の高台から海を見つめるヒルツ主教(中央)、フィーリー執事(左)②新地ベースにて被災した信徒からお話を聞く③磯山聖ヨハネ教会にて④山元町のふじ幼稚園新園舎にて子どもとふれ合う

仮設支援

- みんなで歌う会／松倉仮設 (釜石市)
- お料理を楽しむ会／野田町仮設 (釜石市)
- 体操プログラム／上中島仮設 (釜石市)
- フラワーアートを楽しむ会
／上中島仮設・昭和園仮設 (釜石市)
- ▲ 買い物バスツアー／箱塚桜団地 (名取市)
- ◆ ほっこりカフェ

／泉玉露仮設・渡辺町昼野仮設 (いわき市)

小名浜で定期的に開催されている「ほっこりカフェ」。日本聖公会の京都・大阪・神戸教区の協働のもと、婦人会の手作りの



お菓子やコーヒー豆の提供などを受けて、仮設住宅で過ごす方々にほっと一息、心安らぐ空間を提供しています。住民の中に2つのボラティアグループが立ち上がり、設営、接待を担っています。小名浜聖テモテ教会、日立聖アンデレ教会の信徒が参加協力しています。

- ◆ ほっとコーナー
／広畑仮設・作田仮設・雁小屋仮設 (新地町)
 - ◆ カットサービス、指圧マッサージ、新地寄席／新地町
- その他にも…戸別訪問、座布団配布、談話室プログラム、ほっとシネマ (映画鑑賞会)、チューリップ球根植え 等

外国人支援

- ▲ 個別支援／石巻市、多賀城市、仙台市
- ▲ 英会話教室開講手伝い／名取市
- ▲ 手作りプログラム／南三陸町
- ▲ 日本語教室／仙台市
- ▲ ホームヘルパー2級資格取得講座／気仙沼市
- ▲ リフレッシュプログラム／仙台市

障がい者支援

- ▲ 製品買い上げ支援、販売手伝い／仙台市 (まどか)
- ▲ 施設訪問／仙台市 (まどか)、気仙沼市 (ひまわり)
- ▲ 芋煮会参加、作業手伝い／気仙沼市 (ひまわり)

その他

- ◆ 風除室、シャワー室囲い作りなどベース整備／新地町
- ◆ 郡山聖ペテロ聖パウロ教会会館建築手伝い／郡山市
- ◆ 運動会など若松聖愛幼稚園、セントポール幼稚園行事手伝い／会津若松市、郡山市
- ◆ 卵磨き、お裾分け／新地町

● 岩手県 ▲ 宮城県 ◆ 福島県 ★ その他、複数県における活動を示します。

紙面の都合上、掲載されていない活動もあります。詳細は各ベースのブログをご覧ください。

ホームページ: <http://www.nskk.org/walk/>

コラム ▶ あの日あの時、この人と。

⑤日本語で話そう!

宮城県の志津川に住むフィリピン人女性たちを対象に、「手作りプログラム」を行っています。手作りの小物を作りながら、仙台圏からのボランティアの方々と日本語の会話を練習する集まりです。そのなかで、あるフィリピン人女性から日本語にまつわる体験談を聞きました。

日本人に「お手洗いはどちらですか?」と尋ねられ、手を洗いたいのだと思い、流し場に案内したらとても困った顔をされたそうです。後日、「お手洗い」とは「トイレ」の事であると知りました。しかし今度は、こどもが「手あらいに行ってくる!」と出ていくと「トイレなのね」と勘違いをしてしまうこともあります。この場合は「手洗い・うがい」の「手洗い」でした。

また、「廁 (かわや)」など辞書に書かれている言葉が、古い時代の言葉であることを知らずに話して、日本人に驚かれたことがあったり、心にはあるけれど言葉にならないことを「もによもによ」と濁して言う、と教わり、真似をしてお悔み時に「このたびはモニョモニョ… (大変でしたね、などの気持ちを込めて)」と言ってしまったことなどもあったと聞きました。

今となっては笑い話ですが、楽しい経験も辛い経験もしながら、日本語を覚えていっているようです。日本語を学ぶ外国人の皆さんのおかげで、「日本語の不思議」に気づかされます。(2012年10月仙台圏ベース)



いっしょに歩こう! プロジェクトニュースレター第16号 2012年12月1日発行
 「いっしょに歩こう! プロジェクト」事務局 OPEN 月~金 10:00~17:00 CLOSE 土・日・祝
 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-4-5 クライスビル2F TEL:022-265-5221 FAX:022-748-5321
 E-mail: walk@nskk.org ホームページ: <http://www.nskk.org/walk/>